

～29年度 男子器械種目寸度表～

□選手権1部(中学2年～高校3年) □選手権2部(中学1年～高校3年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
あん馬	1m15cm～1m16cm	10cm
つり輪 鉄棒	2m80cm	20cm
跳馬	1m35cm	20cm
平行棒	1m90cm 2m00cm	12cm 20cm

□Aクラス(小学5年～中学3年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
あん馬	1m15cm	10cm
つり輪	2m65cm	20cm
跳馬	1m25cm	20cm
平行棒	1m85cm 1m95cm	12cm 20cm
鉄棒	2m75cm	20cm

□Bクラス(小学1年～小学6年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
あん馬	1m15cm <small>※身長の低い選手に対し、飛びつき台を別途用意する。</small>	10cm
つり輪	2m65cm	20cm
跳馬	1m20cm	20cm
平行棒	1m75cm 1m87cm	12cm 20cm
	<small>*一般認定器具で高さ187cm(±2cm)、両棒間の幅調節ができるものがあれば良い。(設置の際は業者に確認)</small>	
鉄棒	2m65cm	20cm

【男子Bクラス(2016年～)】

※跳馬 高さ 1m10cm⇒1m20cmに変更
 平行棒 高さ 1m65cm⇒1m75cmに変更
 1m75cm⇒1m87cm(±2cm)に変更

【男子Aクラス・選手権2部】

※男子Aクラス、選手権2部における、つり輪の着地マットの使用は可能

～29年度 女子器械種目寸度表～

□選手権1部(小学6年～高校3年) □選手権2部(中学3年～高校3年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
跳馬	1m25cm	20cm
段違い	低棒 1m65cm	12cm
	高棒 2m45cm	
	バー間隔 最大 1m80cm	
	低棒 1m70cm	
平均台	高棒 2m50cm	20cm
	バー間隔 最大 1m80cm	
	1m20cm	
	1m25cm	

(1)ゆかを除く3種目では最大10cm程度の着地マットを使用しなければならない。(本会場3枚、練習会場3枚)

□Bクラス(小学3年～小学6年)(一部規定演技を含む自由演技)

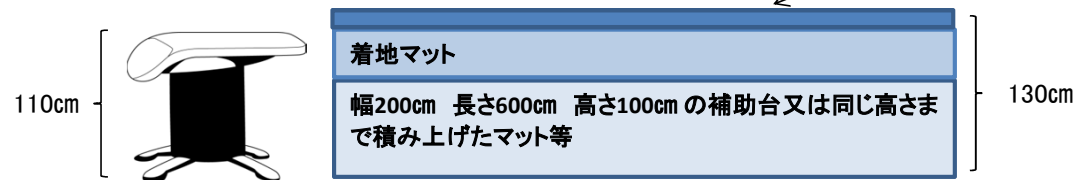
□Cクラス(小学1年～小学6年)※Cクラスは跳馬を使用しない。

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
Cクラス跳馬	メジャーは着地マットの一番先端を「0cm」とする	
段違い	低棒 1m65cm	12cm
	高棒 2m45cm	
	バー間隔 最大 1m80cm	
	低棒 1m70cm	
平均台	高棒 2m50cm	20cm
	バー間隔 最大 1m80cm	
	1m20cm	
	1m25cm	

※Bクラス跳馬について

跳馬	床面からの高さ	着地マットについて
	1m10cm	着地面より1m30cm

10cmのピタリマット



設置案1 : 幅200cm 長さ600cm 高さ100cmの補助台もしくはそれに準じた台を設置し、その上に通常の跳馬用着地マット(200×600×20)を設置しその上にピタリマット(200×600×10)を設置する。

設置案2 : 着地マット(200×600×20)を2×5枚敷き100cmの高さの着地スペースを設営、その上に通常の着地マット、ピタリマット(200×600×10)を設置する。

設置案3 : 幅200cm 長さ600cm 高さ100cmのポディウムに準ずる台(セノーもしくは会場設営業者※各開催地手配)を設置し、その上に通常の跳馬用着地マットを設置し、その上にピタリマット(200×600×10)を設置する。